



防火実習



令和7年1月17日

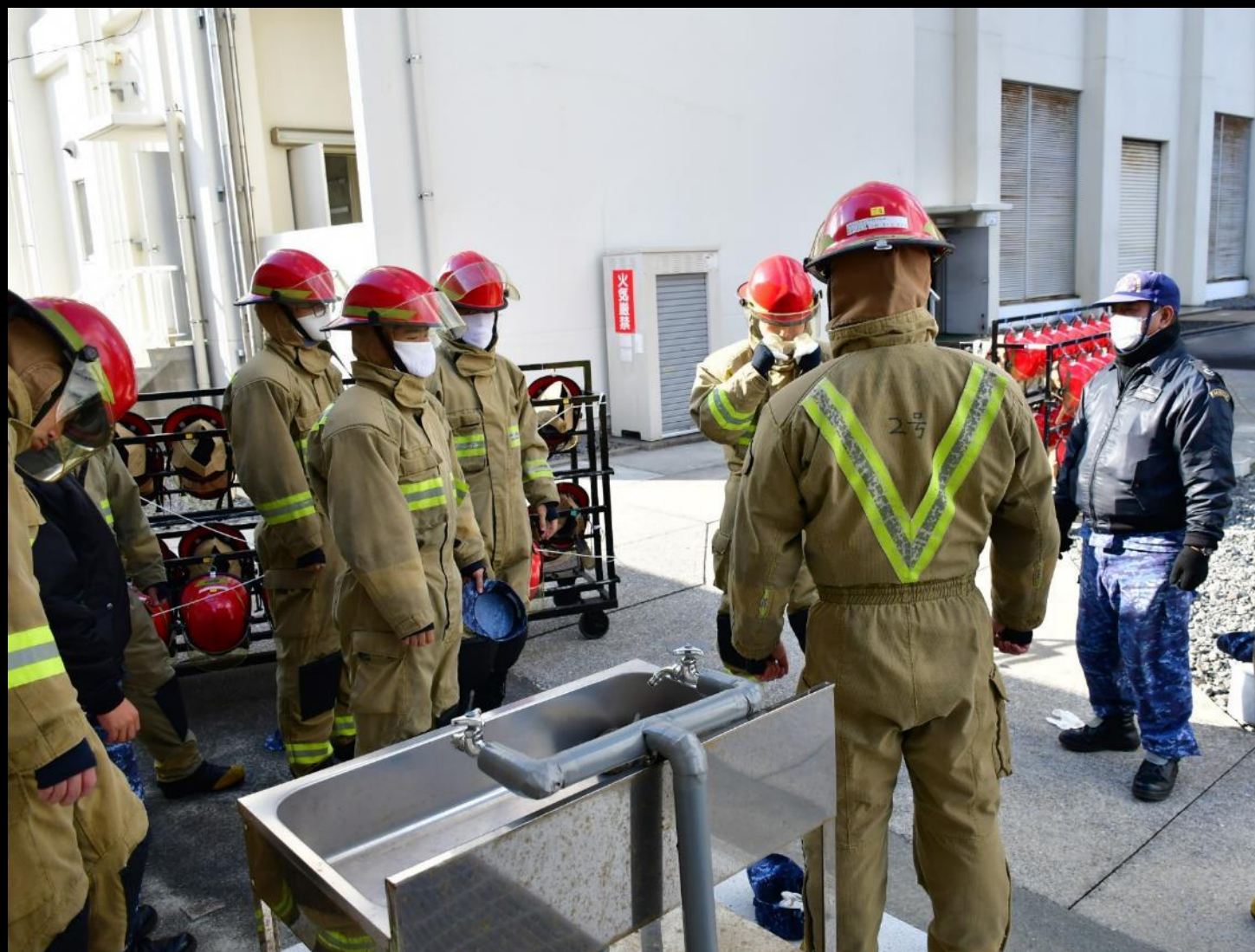
1月17日（金）に防火実習を行いました。
海上自衛官は艦艇勤務が基本であるため、油火災の消火要領の体得が必須となっています。
本訓練では佐教内にある防火実習場で円形タンクに燃料を入れ、火をつけて実際に消火作業を行います。
円形タンクに火をつけると、火柱が何メートルも上がり、勢い良く燃える炎に突入するのは勇気がいりますが、教官から受けた指導事項を一つ一つ確実に実施すれば、何の危険もありません。主要な防火器材の取扱いができ、油火災の消火作業を習得することと同時に、火に対する恐怖心を払拭することも本訓練の目的の一つです。





実習の前に、まずは消火ホース、ノズルの操法の訓練を、号令どおりの動きができるようになるまで繰り返し行い、体に覚えさせました。実習場にも行って事前に訓練もしました。





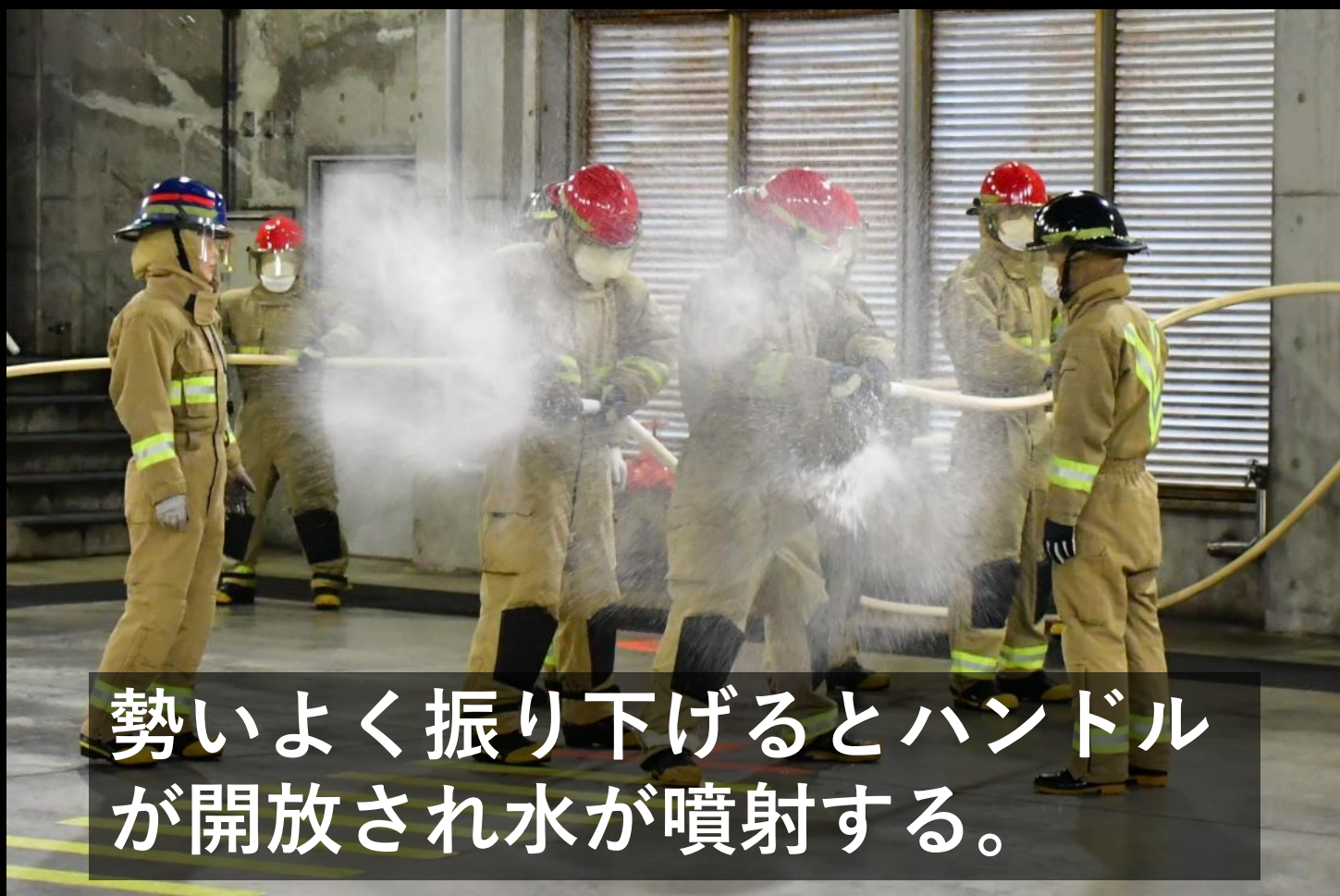
実習場では実際に使う設備を使い、放水もして訓練した他、防火衣の装着法についても訓練しました。防火衣は正しく付けないと性能を発揮できないばかりか火傷してしまう恐れもあるので、お互いにチェックもして問題がないかしっかり確認します。

実習当日、午前中は午後から行う実際に火をつけての消火作業の本番と同じ流れで訓練を実施しました。火がついていないからといってこの訓練をおろそかにすると、実際に行う時に危険に陥ることもあるので真剣にやる必要があります。

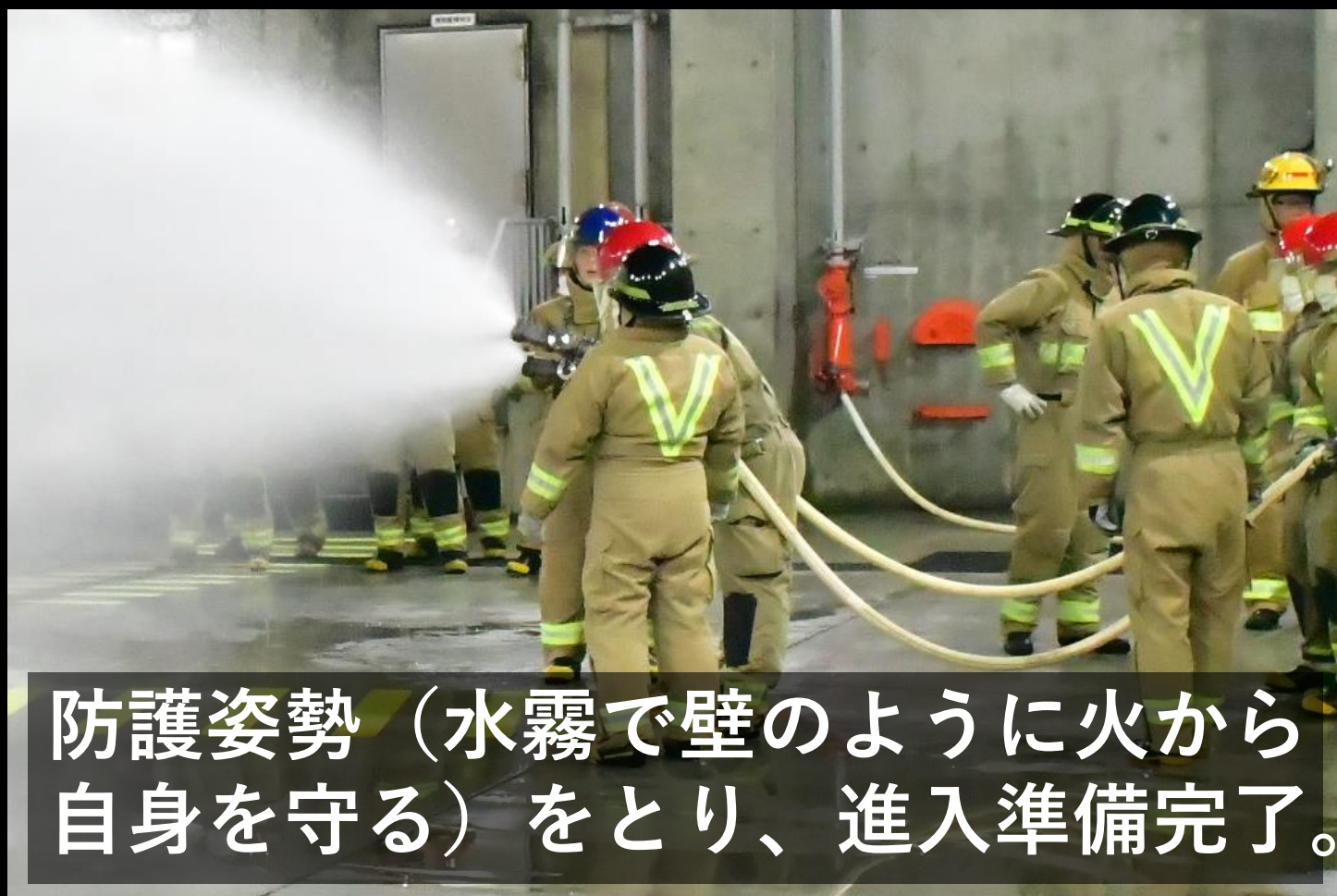




チャージ!
ハンドル持って万能ノズルを
胸元まで持ち上げる。



勢いよく振り下げるとハンドル
が開放され水が噴射する。



防護姿勢（水霧で壁のように火から
自身を守る）をとり、進入準備完了。



班長の「前へ」の号令で前進し、火元(円形タンク)の手前まで進みます。

班長の「チャージ」の号令でタイミングを合わせ放水を開始し、火元に向かって進みます。

ホースの先についているのは万能ノズルといって、ハンドルの開放位置によって直射と高速水霧に切り替えることができ、今回は使用しませんが、アプリケーションターという大きく広がる水霧を噴射できる器材を取り付けることも可能です。

右!左!右!左!

円形タンクまで前進したらノズルを左右に振り、手前の火を消す。

グースネック

手前の火が消えたらグースネックという形に持ち替え、息を合わせて火を前方に追いやる。

正面に構え

ノズルを正面に構え、水霧で油面の全体を覆うようにし、追いやった火を消す。

消火後、残り火がないか隈なく確認する。

下
が
れ

基本姿勢のまま開始位置まで戻る。ホース員は、ノズル員に手を添えて補助をしながら下がる。

異状なし!

開始位置まで戻ったら、シールドを上げマスクを外し、異状の有無を報告する。

上記のような流れで一連の消火作業を行います。ノズル員の操法が重要なのはもちろんですがホース員もそのさばき方一つでノズルの操作のしやすさがかなり変わるため、重要な役割を担っています。ノズル員の後ろのホース員が次のノズル員というように交代しながら、順番に訓練しました。

午後はいよいよ点火して、実際に火を消す訓練です。教官による展示に続き順番に消火作業を行いました。



かなり高くまで炎が上がっていますが、午前中に訓練したとおり、落ち着いて確実に各動作を行えば、ちゃんと消火できるので、何も怖くありません。











訓練後は片付けです。命を守ってくれた装備を丁寧に手入れし、実習場も掃除しました。
今回の訓練で、自分達でも大きな火を消すことができる、という自信に繋がったと思います。

訓練お疲れさまでした！

